

2013.2.14発行

No.30

愛媛の保育



発行者／愛媛県保育協議会
会長／伊東 道子
編集責任者／浅野 文子

発行所／愛媛県保育協議会
松山市持田町三丁目8番15号
愛媛県社会福祉協議会内



大生院保育園

大空へジャンプ!!

これからの保育園

愛媛県保育協議会会長 伊東 道子



保育制度が大きく変わろうとしている今。

東日本大震災によって、改めて日本が地震大国であり大きな災害にいつ襲われるかわからないといった危機感に襲われている今。

これからの保育園を、私たちはどのように考えていけばよいのでしょうか。

愛媛県保育協議会の会長という大きな役割をお任せいただいている今だからこそ余計に、この課題はいつも私の頭の中にあります。

もちろん、地域性もあり、園の独自性もありますが、今一度私たちは、『保育園とは何するものぞ?』と、自分自身に問いかけるべき時だと思っています。

保育所は戦後の混沌とした時代に、戦災孤児や復興に尽力する大人への福祉施策として始まりました。時代は移り、女性の就労化や子育ての孤立化などに対応するために地域全体を対象とした子育て支援に移り変わってきたものの、子どもの最善の利益を図るという理念は一貫して変わりません。

ここで考えたいのは「子どもの最善の利益」とは何かという事です。機嫌のよい子どもは誰でもかわいらしいと感じます。容易に愛着関係が築けます。しかし、気になる子や大人の都合からみて困った子と愛着関係を築くことは容易ではありません。けれども、将来その子が大人になった時に、幼いころ信頼できる大人や、自分を愛してくれ受け入れてくれる大人がそばにいたかどうかで、人生は変わるのではないのでしょうか。

「子どもの最善の利益」とは、ありのままの自分を認めてくれる環境があるという事だと思っています。社会背景は変わり、制度は変わっても、保育園は一貫して、一人一人の子をありのままに認められる場所でありたいと思います。

最後になりましたが、愛媛県保育協議会の活動にいつもご理解ご協力をいただきまして感謝申し上げます。研修や調査・広報といった通常の活動と共に、これからは会員の皆様の声を県や国に伝えていく役目も担っていかねければなりません。今後ともより一層のご支援をお願いしますとともに、ご意見などお気軽にお寄せください。

主任保育士研修会に参加して

砥部町立砥部保育所 谷口典子

平成二十四年十一月八日、九日の二日間、愛媛県主任保育士研修会に参加させていただきました。

初日は、愛媛大学名誉教授、山本万喜雄先生の「人間讃歌の保育をめざして」という演題で講義を受けました。その中で、発達の子どもの自身である。保育士は発達の道筋に沿って念入りな援助をすることが大切である。道筋が分かっていないと保育はできないし、発達の保障が出来ない。また、子どもの発した一言から、子どもの背景や家庭を理解しないといけない、と言われました。私たちは、子どもの発達の道筋をしつかりと勉強すると共に、常に子どもたちに寄り添って保育をしていくことの大切さを再確認しました。

午後からは、パネル・グループ討議がありました。今治北乳児保育所と松山市ひよこ保育園から、「保育の質の向上をめざして」というテーマで発表がありました。どちらの園も、園内研修の充実を図り、自分自身の資質や保育の質の向上に取り組んでいる事例の発表がありました。その後、グループ

に分かれて園内研修の内容や仕方などについて話し合いました。保育所は、長時間保育で当番や時差出勤があり、全員そろっての研修が難しい中、各園いろいろと工夫をして園内研修をしており、参考になりました。また、グループ討議の中で、園内研修を計画していても、いつの間にか行わなくなっている時があるという話がありました。主任保育士のリーダー性が問われていると感じました。これからの園内研修のあり方を見直し、より良い園内研修を模索していかなければならないと思っています。

二日目は、一般財団法人日本保育者支援協会理事長 新保庄三先生の「危機管理保護者対応トレーニング」心の準備のあるところに幸運が舞い込む」という講義がありました。大きな事故の背景には二十九の小さな事故があり、そのまた背景には三百のヒヤリとした事があるそうです。また、事故の殆どは、人間関係に原因があるそうです。小さな事故の内にくい止めるためには、保育士同士のより良い人間関係を築いていくことが大切であると

感じました。また保護者対応の仕方を、詳細に教えて頂き、なるほどと思うような対応の仕方など、実際の場で参考になる講義でした。

午後からは、愛媛大学教育学部教授、青井倫子先生の「遊びの中の教育的意義」について講義を受けました。遊びとは何か、人はどうして遊ぶのかという理論的な所から、遊びの大切さを学びました。「子どもたちは遊んでいるように見えて遊んでないことが多い」という言葉がとても心に残り、自園の子どもの姿を思い浮かべていました。また、遊びを通しての学びを保障していくことが大切で、保育士は子ども一人一人が今何を学んでいるのかということを見極める目と力が必要であると言われました。自分自身も、楽しそうに遊んでいるから良しとしていたことが多いのではないかと反省しています。今後、園内研修の中で遊びの中の学びについて研修していくことが必要であると考えています。

二日間の研修を通して、主任保育士の仕事や使命が自分の中で明らかになってきました。保育のリーダーとして保育の専門性と指導できる力を自分自身が自己研鑽して身につけていかなければいけないと強く思いました。そして、職場の人間関係を作っていくことも主任保育士が担っていくことだということも学び、職員同士のコミュニケーションを図る大切さを感じていま

す。

最後に、山本先生と新保先生の講義の中で、共通して言われていたことがありました。生きていることだけで素晴らしい、手のかかる子どもを愛おしいと思えるだろうか、という事です。保育士としてだけでなく、親として人間として根本的に大切な事だと痛切に感じました。この事を深く心に留め、今後も保育にあたりたいと思っています。





歌声が結ぶ地域との交流

社会福祉法人 育和会
久万高原町 久万保育園

当法人は、久万保育園をはじめとしてNIKONIKO館（児童館）、Happy House（地域子育て支援センター）を併設し、〇歳から十八歳までの継続した子育て支援を行っています。また小さな町ですので、地域との交流も盛んです。

交流を通して地域の方に久万保育園のことを知ってもらうことはもちろんです。それと同時にいろいろな人との交流は子どもたちにとって刺激があり、町内で出会った時には「こんにちは！」と自然とあいさつができ、会話も弾みます。

久万高原町は少子高齢化が進んでいますが、元気なおとしよりがたくさんいらつやいます。そして、みんなが集まる場所がほしいと「コーラス風」が結成されました。メンバーはHappy Houseに月二回集まって歌い、おしゃべりも楽しんでいます。そんな中、「コーラス風」の皆さんから「子どもたちと一緒に歌いたい」と

の声があがり、クリスマス会で「第九」（ベートーベン作曲 交響曲第九番「歓喜の歌」）を歌いたいという久万保育園の思いと重なって、三年前から保育園のクリスマス会で歌うことになりました。

本番近くのコーラスの練習には、子どもたちも加わります。ドイツ語で元氣よく歌う子どもたちに「子どものほうが、覚えが早い」「どうやって覚えるの」と感心され、いつもの練習以上に力が入ります。

今年度のクリスマス会は「被災地を忘れない」をテーマに、「第九」とともに被災地応援ソング「花は咲く」を歌いました。「コーラス風」の皆さん、保育園の四、五歳児、スタッフ、また地元の上浮穴高等学校の有志、今年度はお父さんにも参加を募り、七名の有志の方が加わり、百十名もの大合唱となりました。

保護者や地域の方からは、「素晴らしい歌声でした」「子どもたちや、皆さんの歌声に感動しました」との感想が寄せられ、中には涙される方もいらつやいました。

歌声が結ぶ地域との交流は、今年はお父さんも巻きこみました。これから保育園が中心となって、その輪を大きく広げたいと思います。



松山支部だより

私たち松山市保育会の平成二十四年度加入施設数は、認定こども園四園を含む私立三十八園と公立二十八園（うち公設民営十園）、会員総数は一、一八五名となっています。教養部、広報部、厚生部において会員相互の質の向上を図ることを目的としています。教養部ではアナウンサーによる「ことば・からだ表現ワーク」、造形デザイナーによる「TUKURU」、劇団のかし座による「影絵」など多様な領域の実技研修に取り組んでいます。中でも、プロの影絵劇団員の指導により、参加者が脚本、人形製作、発表を行った影絵ワークショップは大好評でした。そのほか、広報部は機関誌や会報などを年間四回発行、厚生部は体育実技研修会などで親睦を図っています。

さらに、松山市からの委託を受けて行っている研修会が年間五、六回あります。保育士をはじめ、給食調理員や栄養士、保健師、看護師など保育にかかわる全職種を対象としており、中堅、主任、実技、給食担当者、全体研修などを行っています。また、会員ばかり

でなく、地域の認可外保育所にも参加を募り、松山市内全体の保育園の質の向上をめざしています。毎年、内容の濃い充実した研修会になるよう講師を選定しています。今年度は、「保育に生かす手あそび・わらべうた」おはなしかご大竹麗子氏、きりんはうす梅谷美子氏、「ほめて伸ばす子どもの力」ほめ達の西村貴好氏、「中堅保育士に求められるもの」大豆生田啓友准教授、「子ども子育て関連三法により、今後保育所の未来は？」三木一平園長、「子どもの脳は肌にある」スキンシップのチカラ」山口創准教授、「野菜の力」野菜ソムリエ近藤路子氏による講演と調理実習などを行いました。

四月の総会では岩手県大槌保育園の園長先生から、「子どもを守りきる、保育者の責任」と題してお話を伺う中で、被災の甚大さと一年経ってもまだまだ復興できていない現状や子どもの心のケアの必要性について知りました。

今後も、変わるうとしている保育制度について理解し、子どもや保護者が安心して笑顔で過ごせる園生活をめざしていきたいと思っています。



◆ 平成25～27年度全国共通研究テーマ ◆

【主題】 すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして

全 国 共 通 テ ー マ		研 究 テ ー マ
カテゴリー 1	子どもの育ちを保障する	①新たな時代の保育実践 ～すべての子どもにむけて～
		②配慮を必要とするこどもや家庭への支援にむけて
		③保育者の資質向上を図る
カテゴリー 2	子育てライフを支援する	④地域の子育て家庭への支援の充実にむけて ⑤家庭と地域との連携による食育の推進
カテゴリー 3	多様な連携と協働をつくる	⑥子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク
カテゴリー 4	子育て文化を育む	⑦保育の社会化にむけて ～保育の営みをいかに社会に発信するか～
カテゴリー 5	子育て・子育てを支援する仕組みをつくる	⑧公立保育所の使命と地域社会での役割

平成25年度 研修等の日程(案)のお知らせ

1 月に開催した保育所長研修会をもちまして、平成 24 年度の愛媛県保育協議会研修事業は全て終了いたしました。会員の皆さまのご協力に厚くお礼申し上げます。

平成 25 年度の研修会日程（案）が決まりましたのでお知らせいたします。

なお、会場の都合で変更になる場合もありますのでご了承ください。

No.	行 事 名	日 程	会 場
1	愛媛県初級保育士研修会	6月12日(水)～ 6月13日(木)	ひ め ぎ ん ホ ー ル
2	愛媛県子育て支援専門研修会	7月 4日(木)～ 7月 5日(金)	多 目 的 ホ ー ル
3	四国ブロック保育研究大会	7月17日(水)～ 7月18日(木)	愛媛県ひめぎんホール
4	愛媛県保育事業研修大会	7月17日(水)	ひ め ぎ ん ホ ー ル
5	愛媛県障害児保育研修会	7月30日(火)～ 7月31日(水)	ひ め ぎ ん ホ ー ル
6	愛媛県0・1歳児保育研修会	9月12日(木)～ 9月13日(金)	ひ め ぎ ん ホ ー ル
7	全国保育研究大会	10月 9日(水)～ 10月11日(金)	愛 知 県
8	愛媛県保育士研修会	10月30日(水)～ 10月31日(木)	多 目 的 ホ ー ル
9	全国保育士会研究大会	11月 7日(木)～ 11月 8日(金)	岩 手 県
10	愛媛県主任保育士研修会	11月 7日(木)～ 11月 8日(金)	ひ め ぎ ん ホ ー ル
11	愛媛県保育所給食担当者研修会	11月19日(火)	ひ め ぎ ん ホ ー ル
12	第53回愛媛県保育所長研修会	1月23日(木)	多 目 的 ホ ー ル

※上記会場名のうち、「多目的ホール」は愛媛県総合社会福祉会館です。

※平成25年度四国ブロック保育研究大会が愛媛県開催のため、保育事業研修大会と同時開催になります。

平成24年度 保育制度充実のための活動及び保育所問題対応協力金のご報告

昨年の12月にご協力をお願いいたしました「保育所問題対応協力金」は皆様のご協力により、今年度も目標額を達成することができました。この協力金は全国保育協議会が保育制度の充実強化をめざすための活動に活用させていただきます。

ご協力いただいた金額

1,004,400円 ありがとうございました。

平成二十四年度
全国保育協議会
会長表彰

保育事業に多大な貢献をされた方に贈られる全国保育協議会会長表彰受賞者は次のとおりです。沖縄で行われた全国保育研究大会で表彰を受けられたことをご報告いたします。

No.	支部名	氏名
1	伊予郡	浅野文子
2	大洲市	大石あい
3	四国中央市	片岡良子
4	北宇和郡	松浦和子
5	松山市	井手裕子

おめでとうございます

平成二十四年度
愛媛県保育協議会
会長表彰

愛媛県において保育事業の推進に寄与し、その功績が顕著な方に贈られる愛媛県保育協議会会長表彰受賞者は次のとおりです。第五十七回保育事業研修大会で表彰を受けられたことをご報告いたします。

No.	支部名	氏名
1	四国中央市	山内菜穂子
2	新居浜市	合田明子
3	西条市	丹映子
4	今治市・上島町	長野奈恵美
5	今治市・上島町	片岡美千穂
6	松山市	谷村すずえ
7	松山市	高橋美和
8	東温市・久万高原町	玉乃井京子
9	西宇和郡	中田初美
10	南宇和郡	尾崎弥生

ベルマーク支援について

愛媛県保育協議会の研修会のたびに、ベルマークを持ってきてくださる会員の皆様、いつもありがとうございます。ベルマークが、どのように被災地に届けられているか、ご報告いたします。

「ベルマークボランティア愛媛」さんによると、ベルマークを切りそろえて集計する作業や、被災地の受け入れ先を決める手続きなどを済ませたのち、八月に一回目の寄贈が実施できたそうです。宮城県の拠点保育園「青葉保育園」からのお礼のメールには、寄贈マークで購入した一三〇本のボールペンは、宮城県の亘理（わたり）保育所に送られ、宮城県の中央ブロックの保育士一人一人に配布する予定である旨が記されていました。ボールペンを選んだのは、「愛媛の皆様からの温かい気持ちを多くの保育士が共有し、児童票や連絡帳を記入する際、ふるさと宮城の復興を担ってくれる子どもたちと家族の方へ、愛媛の皆様のお顔（エガオ）を添えてつづってきたい」との思いからだそうです。

十一月のお礼のメールには、「二回目は気仙沼地区でコピー用紙を購入完了、三回目は石巻地区にボールペンを贈る予定」とありました。

愛媛県保育協議会では、「ベルマークを集めてお届けする」という小さな支援を続けていけたらと考えていますので、息の長いベルマーク支援のために、今後も会員の皆様のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

愛媛県保育協議会ホームページリニューアル

<http://ehime-hoiku.jp/>

本会ホームページ「えひめの保育」を、下記のとおりリニューアルしました。
会議や研修等のご案内などを随時掲載していきます。また、前ホームページから引き続き、「保育所でのできごと」や「こどものつづやき」なども募集しています。ぜひご活用ください。

本会専用メールアドレスも設けましたので、あわせてお知らせします。
今後の本会事務局へのメール送信は、下記アドレスあてにお願いします。
【愛媛県保育協議会専用メールアドレス】 jimukyoku@ehime-hoiku.jp

愛媛の保育に関することはなんでもご相談ください。愛媛県保育協議会「えひめの保育」

Font size S M L

愛媛県保育協議会
EHIMENOHOIKU

県民向けに、保育所の簡単な説明を掲載しています。

当年度の計画・予算、前年度の報告・決算を掲載しています。

会長あいさつ、組織図、規約を掲載しています。

保育所でのできごと、こどものつづやきの投稿はここをクリック！

新規にアップした情報が随時掲載されます。

関係機関・団体とリンクしています。

本会会員保育所を、市町別に掲載しています。

関係機関・団体とリンクしています。

会員専用ページです。ログインに必要なID・パスワードは、個別にお知らせします。

広報「えひめの保育」をここでチェックできます！

会議開催の予定や、研修会などの要綱、その他の活動について、ここでチェックできます！

関係機関・団体とリンクしています。

会員専用ページ
LOGIN LOGOUT
会員のみご覧いただけるページです
会員に限定してはお問い合わせください

お問い合わせ
CONTACT

アクセス
ACCESS

お知らせ・事務局より
本会研修・大会開催要綱
広報えひめの保育
保育所問題対応協力金
本会その他活動
県内外行事案内

NEWS & TOPICS

2013-01-09 本会研修・大会開催要綱 第52回愛媛県保育所長研修会開催要綱

2012-12-27 保育所問題対応協力金 平成24年度 保育制度の充実のための活動及び保育所問題対応協力金活動の推進について

2012-12-27 保育所問題対応協力金 保育所問題対応協力金パンフレット

2012-12-26 お知らせ・事務局より 正副会長会及び理事会開催のお知らせ

2012-11-29 本会研修・大会開催要綱 給食担当者研修会開催要綱

LINK

全国保育協議会 全国保育士会 全国社会福祉協議会 愛媛県社会福祉協議会

編集後記

この二年間、総務広報部員として六名のメンバーで、「えひめの保育」の発刊を担当させていただきました。少しでも会員の皆様に喜んでいただける内容にしようと、取り組んできました。理事の皆様にご意見をいただいたアンケートから「園内研修どうしていますか？」や「我が園の取り組み」の記事も生まれ、本当に感謝しています。そして、原稿を書いてくださった皆様、ご協力ありがとうございました。

「えひめの保育」がますます素晴らしいものになっていくことを、お祈りしています。

総務広報部員一同

